



桃太郎（II）

おじいさんとおばあさんは、こ
う言って顔を見合わせながら、
「あッは、あッは。」とおもしろそ
うに笑いました。

そして桃の中から生まれた子だ
というので、この子に桃太郎とい
う名をつけました。

二

おじいさんとおばあさんは、それ
はそれはだいじにして桃太郎を育



桃太郎（12）

てました。桃太郎はだんだん成長するにつれて、あたりまえの子供にくらべては、ずっと体も大きいし、力がばかに強くなって、すもうをとって近所の村じゅうで、かなうものは一人もないくらいでしたが、そのくせ気だてはごくやさしくって、おじいさんとおばあさんによく孝行をしました。

桃太郎は十五になりました。



桃太郎（13）

もうそのじぶんには、日本の国中で、桃太郎ほど強いものはないようになりました。桃太郎はどこか外国へ出かけて、腕いっぱい、力だめしをしてみたくなりました。

するとそのころ、ほうぼう外国の島々をめぐるって帰って来た人があって、いろいろめずらしい、ふしぎなお話をした末に、
「もう何年も何年も船をこいで行



桃太郎（14）

くと、遠い遠い海のはてに、鬼が島という所がある。悪い鬼どもが、いかめしいくろがねのお城の中に住んで、ほうぼうの国からかすめ取った^{とうと}貴い宝物を守っている。」

と言いました。

桃太郎はこの話をきくと、その鬼が島へ行ってみたくって、もういても立ってもいられなくなりました。そこでうちへ帰るとさっそ



桃太郎（15）

く、おじいさんの前へ出て、
「どうぞ、わたくしにしばらくお
ひまを下さい。」

と言いました。

おじいさんはびっくりして、
「お前どこへ行くのだ。」
「鬼が島へ鬼せいはつに行こうと
思います。」

と桃太郎はこたえました。

つづく